

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
1	石井 榮恒(いしい えいつね)	能楽家として、大宮薪能の実行委員を務め、企画、監修にあたり、市民の能楽に対する理解を深めるとともに、長年にわたり本市芸術文化の振興、発展に尽力された。	平成16年11月9日
2	伊藤 桂一(いとう けいいち)	作家・詩人として、平成6年から実施している浦和市スポーツ文学賞(現さいたま市スポーツ文学賞)最終選考委員を務め、長年にわたり本市芸術文化の振興、発展に尽力された。	平成16年11月9日
3	岩淵 有美(いわぶち ゆみ)	アテネオリンピックソフトボール競技において、日本代表として出場し、銅メダルを獲得された。	平成16年11月9日
4	鈴木 絵美子(すずき えみこ)	アテネオリンピックシンクロナイズドスイミング競技において、日本代表として出場し、銀メダルを獲得された。	平成16年11月9日
5	諸井 誠(もろい まこと)	作曲家として、与野市ふるさと振興機構顧問、埼玉県芸術文化振興財団理事長、彩の国さいたま芸術劇場館長を務め、本市芸術文化の振興、発展に尽力された。	平成16年11月9日
6	市村 緑郎(いちむら ろくろう)	彫刻家として、与野市美術家協会会長、日展評議員及び埼玉県文化団体連合会役員を務め、長年にわたり本市芸術文化の振興発展と後進の育成に尽力された。	平成17年11月9日
7	大谷 羊太郎(おおたに ようたろう)	作家として、浦和市スポーツ文学賞・さいたま市スポーツ文学賞最終選考委員及びさいたま文藝家協会役員を務め、長年にわたり本市芸術文化の振興発展と後進の育成に尽力された。	平成17年11月9日
8	杉田 豊(すぎた ゆたか)	絵本作家として数々の作品を発表するとともに、ふみの日記念切手をはじめとする切手の原画作成も手がけ、国内外で多くの賞を受賞された。	平成17年11月9日
9	杉山 穎司(すぎやま えいじ)	指揮者として、埼玉県吹奏楽連盟役員、全日本吹奏楽連盟役員及び埼玉県文化団体連合会副会長を務め、長年にわたり本市芸術文化の振興発展に尽力された。	平成17年11月9日
10	長谷川 和男(はせがわ かずお)	県立大宮高等学校野球部監督として春夏7回の甲子園出場を果たすとともに(財)埼玉県体育協会副会長として本市スポーツの振興発展に尽力された。	平成17年11月9日

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
11	松本 暁司(まつもと ぎょうじ)	浦和市立南高等学校サッカー一部監督として、6回の全国大会優勝を果たすとともに、(財)埼玉県サッカー協会副会長として本市スポーツの振興発展に尽力された。	平成17年11月9日
12	石川 潤平(いしかわ じゅんぺい)	独自の毛書技法で作品を製作し、数々の賞を受賞するとともに、後進の育成指導に尽力。2004年には埼玉県無形文化財に指定された江戸木目込人形の技術保持者として認定されるなど、人形文化の振興発展に寄与された。	平成18年11月8日
13	鈴木 賢一(すずき けんいち)	創造性豊かな作品を製作し、数々の賞を受賞するとともに、後進の育成指導に尽力。2004年には埼玉県無形文化財に指定された江戸木目込人形の技術保持者として認定されるなど、人形文化の振興発展に寄与された。	平成18年11月8日
14	老川 慶喜(おいかわ よしのぶ)	鉄道とともに発展を遂げてきた本市へ東京都神田の交通博物館を誘致するため長年にわたり尽力。鉄道博物館の整備にあたっては、本市のシンボリックな施設とするため、専門的な見地から施策を提案するなど、本市鉄道文化の振興発展に寄与された。	平成19年11月7日
15	長部 日出雄(おさべ ひでお)	「津軽世去れ節」「津軽じょんから節」で第69回直木賞、「鬼が来た 棟方志功伝」で第30回芸術選奨文部大臣賞を受賞するなど、我が国文藝界の中堅として活躍。さいたま市スポーツ文学賞最終選考委員として後進の育成指導に尽力された。	平成19年11月7日
16	やなせ たかし(本名:柳瀬 嵩)	こども達に絶大な人気を誇る「アンパンマン」をはじめとして数多くの絵本を出版し我が国を代表する絵本作家、漫画家として活躍。浦和うなぎまつりでは、PRキャラクターやソングを作成するなど、多くの市民に夢と希望を与え、本市文化の振興発展に寄与された。	平成19年11月7日
17	磯貝 勝太郎(いそが いかつたろう)	大衆文学、歴史文学の評論活動に対して第18回長谷川伸賞、「司馬遼太郎の風音」で第14回尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞を受賞するなど文芸評論の第一人者として活躍されており、また、さいたま市スポーツ文学賞最終選考委員として長年にわたり本市文化芸術の振興、発展に寄与された。	平成20年11月14日
18	杉田 康恕(すぎた やすのり)	財団法人日本いけばな芸術協会評議員として、また、本年8月からは埼玉県いけばな連合会副理事長として活躍されており、本市では、平成17年からさいたま市いけばな芸術協会会長に就任するなど、長年にわたりいけばなを通じて本市文化芸術の振興、発展に寄与された。	平成20年11月14日
19	伊藤 利行(いとう としゆき)	昭和24年東京美術学校(現東京芸術大学)を卒業し、その年の日展に入選され、昭和49年、53年には日展において特選(洋画)受賞した。また、地域においては浦和市長の役員として活躍され、平成14年、平成17年にはさいたま市美術展の審査員を務め、現在までの長きにわたり本市の文化芸術の分野の発展に大きく寄与された。	平成21年11月4日
20	犬飼 基昭(いぬかい もとあき)	浦和レッドダイヤモンズ取締役社長を務め、数々のタイトルを獲得するとともに、市民の誇りとなるサッカーチームの育成に尽力し、市民に夢、希望、感動を与えるなど、本市のサッカー文化の発展に大きく寄与した。また、平成20年7月から日本サッカー協会会長に就任し、来年行われるワールドカップに日本代表を導くことに尽力された。	平成21年11月4日

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
21	田中 壽雄(たなか ひさお)	昭和17年東京美術学校(現東京芸術大学)を卒業し、その年の文部省美術展覧会第4部に入選され、昭和20年から24年まで5回連続して日展に入選され、平成8年から現在まで日本文化財漆協会副会長として活躍する。また地域では浦和市美術家クラブ理事として活躍され、さいたま市美術展においては運営委員、審査員として活躍するなど、現在までの長きにわたり本市の文化芸術の分野の発展に大きく寄与された。	平成21年11月4日
22	宮田 守夫(みやた もりお)	昭和50年から与野市体育協会会長として地域におけるスポーツの普及振興に積極的に活動し、3市合併時には各市の体育協会の調整、並びにさいたま市体育協会の発足に尽力した。その後、さいたま市テニス協会会長をはじめ、埼玉県体育協会会長、日本体育協会副会長などを務め、地域だけでなく日本国内のスポーツの発展に大きく寄与された。	平成21年11月4日
23	小川 游(おがわ ゆう)	昭和45年の浦和市美術展覧会審査員就任をはじめ、平成19年に発足したさいたま市美術家協会の初代会長に就任。また、平成22年度(仮称)さいたま市文化都市創造条例制定検討委員会委員を務め、本市の文化芸術分野の発展に大きく寄与された。	平成22年11月11日
24	馬場 あき子(ばば あきこ)	朝日歌壇選者や各種短歌賞選考委員などを務め、現代短歌界を代表する女流歌人として活躍している。平成12年から「現代短歌新人賞」(主催:さいたま市・さいたま市教育委員会)の選考委員として、これまで長きにわたり務められ、本市の文化芸術分野の発展に大きく寄与された。	平成22年11月11日
25	程塚 孝作(ほどづか こうさく)	昭和54年から大宮市の野球連盟理事長として野球の普及振興に積極的に活動し、3市合併時には各市の野球連盟の統合に向けた調整に尽力した。また、平成5年に大宮市体育協会副会長、平成11年に埼玉県野球連盟理事長に就任、現在はさいたま市体育協会副会長をはじめ、埼玉県野球連盟副会長、全日本野球連盟理事などを務め、本市のスポーツ分野の発展に大きく寄与された。	平成22年11月11日
26	篠 弘(しの ひろし)	日本現代詩歌文学館館長、日本文藝家協会理事長、宮中歌会始選者、毎日歌壇選者として活躍している。平成12年から「現代短歌新人賞」(主催:さいたま市・さいたま市教育委員会)の選考委員を務め、これまで長きにわたり、本市の文化芸術の分野の発展に大きく寄与された。	平成23年11月1日
27	稲田 浩(いなだ ひろし)	さいたま市合唱浦和の会会長、さいたま市音楽家協会会長、さらには、さいたま市文化協会理事長として本市芸術分野の第一人者として活躍。また、現在は、さいたま市文化芸術都市創造審議会委員を務めるなど、永年にわたり本市芸術分野の振興・発展に大きく寄与された。	平成24年11月1日
28	森 孝慈(もり たかじ)	三菱浦和フットボールクラブ(現浦和レッドダイヤモンズ)の本市誘致に尽力。同クラブの初代監督を務め、Jリーグを代表するクラブの礎を築いた。平成19年からは(財)さいたま市公園緑地協会副理事長、平成23年から(公財)さいたま市公園緑地協会理事長を歴任するなど、永年にわたり本市スポーツ分野の振興、発展に大きく寄与された。	平成24年11月1日
29	横山 謙三(よこやま けんぞう)	浦和レッドダイヤモンズ監督、同ゼネラルマネージャー、また、(株)三菱自動車フットボールクラブ(現浦和レッドダイヤモンズ(株))取締役としてクラブの地域活動の強化に尽力。(公財)埼玉県サッカー協会副会長兼専務理事を務め、永年にわたり本県並びに本市スポーツ分野の振興、発展に寄与された。	平成24年11月1日
30	加藤 凌平(かとう りょうへい)	ロンドンオリンピック体操競技に日本代表として出場し、男子団体総合で銀メダルを獲得し、多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に寄与された。	平成24年11月1日

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
31	山室 光史(やまむろ こうじ)	ロンドンオリンピック体操競技に日本代表として出場し、男子団体総合で銀メダルを獲得し、多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に寄与された。	平成24年11月1日
32	牧野 圭一(まきの けいいち)	市民漫画展審査員、市ユーモアフォトコンテスト審査員、北沢楽天顕彰会会長を務られ、また、市ユーモアセンター設立準備実行委員会副会長として、プラザノース・ユーモアスクエアの設立に尽力されるなど、長年にわたり本市文化芸術の振興、発展に大きく寄与された。	平成26年1月27日
33	北 清治(きた せいじ)	公益財団法人さいたま市体育協会会長。3市合併に伴う体育協会組織の統合や公益法人化に尽力。さらに、市相撲連盟名誉会長、さいたまスポーツコミッション委員、さいたまシティマラソン実行委員会委員、さいたまクリテリウム実行委員会委員を務めるなど、長年にわたり本市の体育・スポーツの振興、発展に大きく寄与された。	平成26年11月19日
34	浅見 俊雄(あさみ としお)	日本サッカー協会1級審判員及び国際審判員として国内外で活躍され、昭和58年にFIFA審判員特別功労賞を受賞、平成22年には日本サッカー殿堂に掲額された。また、昭和53年に日本サッカー協会理事に就任、平成3年からはJリーグ理事を兼務するなど、長年にわたり日本サッカー界全体の底上げと活性化に努められた。	平成27年11月10日
35	細野 稔人(ほその としひと)	さいたま市美術家協会の設立に尽力され、平成19年に発足した同協会の初代事務局長を務めた。また、二紀会委員、日本美術家連盟会員、埼玉県美術家協会参与として活躍されるとともに、国内各地の美術館や市内各所に作品が収蔵・設置されるなど、長年にわたり本市の文化芸術の振興、発展に大きく寄与された。	平成27年11月10日
36	轡田 隆史(くつわだ たかふみ)	県立浦和高等学校在学中からサッカー選手として活躍され、高校在学中は全国大会優勝に貢献するなど、サッカー王国埼玉の歴史を築いた一人。新聞記者として世界各地で取材を行い、テレビのニュース番組のコメンテーターとしても活躍され、著作も多数。本市のスポーツ振興審議会委員を12年間にわたって務められ、本市のスポーツ振興にも大きな功績を残された。	平成28年11月16日
37	清水 マリ(しみず まり)	日本初の長編テレビアニメ「鉄腕アトム」で主役のアトムの声を演じるなど、日本の声優の草分け的存在。「妖怪人間ベム」のベロ役の声や、様々な役の声でも全国に親しまれているほか、舞台での朗読活動やむかし語りなどでも活躍。市内では、ユーモア文化の継承活動や小学校などでの朗読指導などを精力的に展開され、本市の文化芸術の振興に大きく寄与された。	平成28年11月16日
38	タケカワ ユキヒデ(たけかわ ゆきひで)	ヴォーカル・作曲を担当したバンド「ゴダイゴ」は一世を風靡し、「ガンダーラ」「銀河鉄道999」など、数多くの名曲を残された。さいたま市では、市歌「希望(ゆめ)のまち」の作曲を担当されたほか、若手音楽家の育成を目的とした「さいたま夢KANNA音楽祭」をプロデュースされるなど、本市の音楽文化の振興に大きく寄与された。	平成28年11月16日
39	奥原 希望(おくはら のぞみ)	県立大宮東高等学校在学中、日本人初となる世界ジュニア選手権大会で優勝。オリンピック初出場となったリオデジャネイロオリンピックでは、男女を通じて日本バドミントン史上初のシングルスメダリストとなった。奥原氏のバドミントンにおける大きな功績は、多くの市民に夢と希望を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	平成28年11月16日
40	岸 光太郎(きし こうたろう)	20年間にわたってウィルチェアーラグビーの選手として活躍され、ロンドン、リオデジャネイロの2回にわたってパラリンピックに出場。リオデジャネイロ大会では、日本チーム初となる銅メダルの獲得に貢献。岸氏のウィルチェアーラグビーにおける大きな功績は、多くの市民に夢と希望を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	平成28年11月16日

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
41	根岸 右司(ねぎし ゆうじ)	渡邊武夫氏のもとで画業の研鑽を積み、これまでに光風会記念賞、日展特選、日展内閣総理大臣賞など各賞を受賞。日展理事、光風会常務理事を務め、市美術家協会に所属。県立浦和高等学校で11年間にわたり教鞭をとり、美術教育にも尽力された。同氏の作品「古潭風声」に対し、平成28年度の日本芸術院賞が授与された。	平成29年10月25日
42	石原 進(いしはら すずむ)	110年を超える歴史を持つ日展において、2度にわたり日展特選を受賞。日春展においても各賞を受賞されるなど、今日に至るまで日本画の継承と発展に多大な貢献を果たされている。さいたま市文化協会理事長、さいたま市美術家協会の評議員としても活躍され、さいたま市美術展覧会では、招待作家として毎年作品を出品。後進画家の育成にも熱心に取り組み、本市の芸術文化の振興に大きく寄与された。	平成30年11月1日
43	落合 弘(おちあい ひろし)	サッカー選手として浦和市立高校(当時)で国民体育大会2連覇。日本代表ではワールドカップ予選など国際Aマッチ63試合に出場。日本サッカーリーグ(当時)では年間ベストイレブン10回。引退後、浦和レッドダイヤモンズでヘッドコーチ、スカウト担当等を歴任されたほか、浦和レッズハートフルクラブのキャプテンとして、長年にわたりサッカーを通じた子どもたちの健全育成に大きく寄与された。	平成30年11月1日
44	林 一夫(はやし かずお)	平成18年から現在までさいたま市バドミントン協会会長として活躍。バドミントンの聖地づくりに取り組み、日本リーグ(現S/Jリーグ)さいたま大会など、国内主要大会の市内での定期開催を実現。さいたま市体育協会副会長としても活躍され、平成30年6月に退任されるまで、通算14年の長きにわたり同協会の要職を務められ、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	平成30年11月1日
45	小池 光(こいけ ひかる)	歌集「時のめぐりに」で沼空賞を受賞。「思川の岸辺」では読売文学賞詩歌俳句賞に輝くなど多くの賞を受賞され、今日に至るまで、現代短歌界の発展に多大な貢献を果たされている。さいたま市では、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰し、新人歌人の発掘・支援を行う「現代短歌新人賞」の選考委員を10年間にわたり務め、現代短歌の普及啓発及び後進の育成に尽力。本市の芸術文化の振興に大きく寄与された。	令和1年11月19日
46	丹羽 孝希(にわ こうき)	市内に主たる活動の拠点を置く卓球のクラブチーム、T.T彩たまに所属。ロンドン、リオデジャネイロ、東京と3回にわたって卓球日本代表としてオリンピックに出場。今回の東京オリンピック大会では、卓球男子団体に銅メダルを獲得。多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	令和3年9月14日
47	赤石 竜我(あかいし りゅうが)	さいたま市出身。パラリンピック初出場となった東京大会で、日本車いすバスケットボール史上初の銀メダルを獲得。多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	令和3年10月26日
48	藤澤 潔(ふじさわ きよし)	さいたま市在住。リオデジャネイロ、東京と2大会連続でパラリンピックに出場。今回の東京大会で、日本車いすバスケットボール史上初の銀メダルを獲得。多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	令和3年10月26日
49	林 宏一(はやし こういち)	平成21年に岩槻人形博物館開設準備委員会委員長に就任し、岩槻人形博物館開館まで約11年にわたり、県内の文化保護行政の第一人者として地元団体、経済界との関係構築や開設準備に尽力された。令和2年の開館時から約1年間、初代館長を務め、本市の人形文化の振興・発展に大きく寄与された。	令和3年11月9日
50	本田 光洋(ほんだ みつひろ)	シテ方金春流の能楽師で、国内のみならず、海外でも演技指導を行うなど能楽の普及にも努められている。文化庁芸術祭優秀賞を受賞、国の重要無形文化財保持者に認定、旭日双光章も受章されている。本市では、大宮氷川神社にて開催される大宮新能の演者として、昭和57年の第1回から毎年参加。今年度第40回記念を迎えるに至るまで、永年にわたりその普及に尽力され、本市の文化・芸術振興に大きく寄与された。	令和3年11月9日

さいたま市文化賞受賞者

番号	氏名(ふりがな)・団体名(代表者氏名)	功 績 内 容	受 賞 年 月 日
51	宮崎 早織(みやざき さおり)	市立与野東中学校卒業。オリンピック初出場となった東京オリンピック大会で、日本代表選手の一員として、日本バスケットボール史上初の銀メダルを獲得。多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	令和3年11月15日
52	高橋 和樹(たかはし かずき)	さいたま市在住。リオデジャネイロ、東京と2大会連続でパラリンピックに出場。今回の東京大会では、ペア(運動機能障害・脳性まひBC3)で日本ボッチャペア史上初の銀メダルを獲得。多くの市民に感銘を与え、本市のスポーツ振興に大きく寄与された。	令和3年12月10日
53	栗木 京子(くりき きょうこ)	歌集「けむり水晶」で逍空賞に輝き、平成26年に紫綬褒章を受章。また、現代歌人協会の理事長を務めるなど、現代短歌界の発展に多大な貢献を果たされている。本市では、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰し、新人歌人の発掘・支援を行う「現代短歌新人賞」の選考委員を17年間にわたり務め、現代短歌の普及啓発及び後進の育成に尽力。文化芸術の振興に大きく寄与された。	令和4年5月1日
54	鶴見 清一(つるみ せいいち)	岩槻音楽文化連盟会長、さいたま市文化協会理事長を歴任。「文化フェスティバル」や「さいたま国際芸術祭2020」の連携プロジェクトの開催等を通じ、市内文化団体の協調を図るなど、文化芸術振興の先導者として活躍。また、さいたま国際芸術祭実行委員会委員、さいたま市文化芸術都市創造審議会委員を務めるなど、本市の文化芸術の振興・発展に大きく寄与された。	令和4年5月1日
55	西野 朗(にしの あきら)	さいたま市出身。サッカー選手として県立浦和西高等学校、早稲田大学、日立製作所で活躍。引退後は、日本代表やJ1リーグクラブの監督を歴任。アトランタオリンピックでのブラジルからの歴史的な勝利や、2018FIFAワールドカップでのベスト16進出など日本中を盛り上げ、令和元年には日本サッカー殿堂に掲額。日本サッカー界全体の底上げと活性化に大きく寄与された。	令和4年5月1日
56	森 士(もり おさむ)	さいたま市出身。浦和学院高等学校硬式野球部監督として通算22回甲子園へ出場。平成25年の選抜高等学校野球大会では、埼玉県勢45年ぶりとなる優勝に導いた。また、本市の「夢工房未来くる先生ふれ愛推進事業」や埼玉県障害者スポーツ協会が主催する「ふれあい野球教室」への参加などを通じ、スポーツ振興とスポーツを活用したまちづくりに大きく寄与された。	令和4年5月1日
57	山田 登美男(やまだ とみお)	日本盆栽作風展において外務大臣賞、内閣総理大臣賞等を多数、受賞。 平成3年に日本盆栽作家協会を設立後、ヨーロッパに同協会支部を設立し盆栽指導を行うなど、世界で活躍。 本市では、大宮盆栽美術館の設立準備から運営に至るまで尽力され、盆栽管理官として美術館所蔵の盆栽の育成管理を行うなど、本市の盆栽文化の振興・発展に大きく寄与された。	令和5年5月30日
58	田嶋 幸三(たしま こうぞう)	浦和市立南高等学校(当時)において主将として出場した第54回全国高等学校サッカー選手権大会で優勝を果たす。日本代表として、国際Aマッチ7試合にも出場。 引退後は、アンダー世代の日本代表監督を歴任。また、公益財団法人日本サッカー協会の会長を8年間にわたり務め、本市のサッカー文化の発展、そして日本サッカー界全体の底上げと活性化に大きく寄与された。	令和6年5月1日